令和８年度　第３回　南箕輪村地域公共交通会議
南箕輪村地域公共交通協議会
議　事　録

日　時：令和８年 10 月１日（木）　9:30～11:00

会　場：南箕輪村役場　２階　講堂

１．開会

２．会長あいさつ

・田中会長よりあいさつ

３．協議事項

（１）南箕輪村地域公共交通計画見直しの方向性について

・事務局より、資料に基づき説明

・続いて、渡邉委員（長野運輸支局）より改正地域交通法の概要について

資料に基づき説明

●百瀬委員 （村議会）	次回、実証運行の細かい内容が示されると思うので、その際に改めて確認したい。 公共交通については全員が納得する方法はないので、しっかりと村民のためにできればよいと思っている。 懸念事項として、白川委員が前回言及していた一般タクシーのパンク状態への対処などについてしっかり詳細を詰めてほしい。
●白川委員 （白川タクシー）	昨日、伊那市でぐるっとタクシー及びデジタルタクシーの運行についてインテリジェント交通部会という会議があった。南箕輪村の方でも要望があり、事業者へも話があったこと、白川タクシーとしては自治体の要請であるので前向きに検討する旨も報告したところ。 また同時に、乗合事業で確保する車両・人員の分、一般タクシーが減ることになるため、一般タクシーの需要に対して供給できる量が十分でない状態になってきていることも意見した。一般タクシーの需要量については、デジタルタクシーが低料金かつ、回数・行先制限もない制度になっており、安易な利用と需要量の拡大に繋がっているため、適正な見直しをする必要があるということは意見している。 なお、南箕輪村への協力については行えると考えている。

●藤松委員	（改正地域交通法について）スクールバスや医療・福祉・商業・観光施設等の利用者向け総合サービスの車両を輸送資源として活用する場合に、必要な免許としては1種なのか2種なのか。
●渡邉委員 （長野運輸支局）	旅館、ホテルなどが行う自家用車での運行であれば1種免許で可能。公共ライドシェアなど自家用有償での対応になると、ドライバーの研修など必要になる。
●藤松委員	タクシーの利用状況について、行先など村の方で把握しているか。
●山崎委員 （福祉課長）	タクシー利用料金助成事業では、仕組み上集計できていない。 一方で、社会福祉協議会に委託している福祉移送サービスでは集計ができている。
●白川委員 （白川タクシー）	村への請求の際には、利用者は特定できないが、どこからどこまで乗って、何枚のタクシー券を使ったかという個票をつけて請求しているので、分かっているかと思う。
●藤松委員	それぞれの利用を見ていく中で、村が示した目的に従っていないようなものがあれば指導をする必要がある。
●白川委員 （白川タクシー）	目的外利用についてだが、私が実際乗務するなかで、南箕輪村の券については、明らかに違和感のある利用はなかったので、報告する。
●田中会長	ここまでの方向性について、所感でも結構なので事業者さんの方からコメントをいただきたい。
●福澤委員 （伊那バス）	大きな方向性については良いかと思う。実証運行やアンケート調査の中で良い方向性見つけていくとよいのではと思う。 バスに関係するところでは、また具体的な協議があれば改めて検討をしたい。
●田畑委員 （JRバス関東）	バス会社としては、ドアツードアのサービスということになると路線バスはどうしても弱いところがある。バスのことを検討するのであれば、当社としては運転手を出すことは可能ということはお伝えする。
●山崎委員 （福祉課長）	南箕輪という地域では、伊那市に行ったり箕輪町に行ったりということがある中で、どれだけ乗合を成立させることができるのか。乗合が成立することで効率よく行けるので、イメージとしてどれだけ乗合が成立するのか教えてほしい。 コールセンターについて、伊那市でのコールセンターの在り方がどういうものなのかを知りたい。 乗合タクシー事業に対する財源補助はどうなるか。
●事務局	乗合の成立率に関しては、AIやコールセンター、利用者の利用登録の仕方などによって変わってくる。できるだけ乗合が成立するような仕組みづくりができればよいが、未定なので今後検討していく。

	コールセンターについては、伊那市では現状、利用者からの電話予約を受け付けて、AI システムへ代理入力を行っている。 財源については、特別交付税の対象になるので、自治体負担額の 7 割程度措置されることを見込んでいる。
●白川委員 （白川タクシー）	コールセンターだが、本来はこの予約システムについてはスマートフォンで予約をするものだが、ぐるっとタクシーの対象者は高齢者及び障がい者が主のため、代行入力をするコールセンターが必要になっている。伊那市では現状、コールセンター経由での予約が 8 割 9 割ぐらいになっている。乗合の成立について、同じような方面に向かう利用者を組み合わせて乗り合わせていく、というシステムになっており、利用者も厳密に何時につくというのではなく、5 分 10 分余裕を持たせて経由できるようなシステムになっている。乗合率で行くと現状 3 割後半ぐらい。松川町だと、コールセンター業務は地元タクシー事業者が受けているが、事業者が乗合のコールセンターをやると乗合が成立しにくいということもある。なかなか簡単に扱えないという印象である。
●百瀬委員 （村議会）	三鷹市で、オンデマンドのバスという名前で 8 人乗りぐらいのワゴンを使っているところがあったが、JR バス関東さんからバスであれば、という発言もあった。バスとタクシーの基本的なすみ分けはどうなるのか。 AI を使った配車について、三鷹市のものは完全なドアツードアではなく、指定された乗り場があって、成立すると運転手のルートが変わって走って行く形で、何分につきますというようなお知らせがアプリに入ってくるという形だったが、そんなイメージで良いのか。
●事務局	タクシーとバスという名称だが、ワゴン車を使っているようなところでバスという名称でやっているものがあるが、事業者の区分としては、10 人乗りのジャンボタクシーまでがタクシー事業、それ以上になるとバスというようなすみ分けかと思われる。 デマンド事業をやるにあたっては、車両のサイズというところも、どこまでのものが必要かというところで選定する必要が出てくるかと思う。 デマンド運行の詳細については、どういった制度設計にしていくかというところ今後検討していきたい。
●渡邉委員 （長野運輸支局）	オンデマンドタクシーとバスの違いについては、貸切での運行であれば 11 人以上が貸切バス、それ未満がタクシーになる。オンデマンドバスとして運行しているものについては、8 人乗りなどのワゴンで運行しているものを、呼称上バスとしているものと思われる。 交通空白の関係について確認だが、該当はしないということであるが、オンデマンドタクシーの考え方としては朝夕の運行についての補完ということで良かったか。
●事務局	オンデマンドタクシーの導入検討の経緯という点、コミュニティバスを朝夕のみの運行にしたということで、日中の生活の足を補完するために今年度タクシー券を拡充してお配りしているところ。この部分について、指摘をいただいているところでもあり見直しを図っていく中で、オンデマンドタクシーの導入を検討している。

●渡邉委員 （長野運輸支局）	日中の足の確保ということで承知しました。個人的な意見も含むが、乗合タクシーはどうしても安価なタクシーとして利用されてしまうということもあり、あくまで乗合タクシーとして通常のタクシーと差別化を図るということも必要かと思うので意見として申し上げる。
●田中会長 （副村長）	では方向性について、オンデマンド乗合事業として、村内全域を対象として実証運行を来年度実施していくこと、あわせて利用者等アンケート調査を実施していくことでよろしいか。 特に異論ないようですので、そのようにまとめさせていただく。

（２）南箕輪村地域公共交通計画の見直し案について

・事務局より、資料に基づき説明

●百瀬委員 （村議会）	前回も言及したが、計画目標について、特に高齢者や高校生などと記載がある。本来の公共交通のあり方としては、広く一般村民が使えるということかと思う。対象者には割引制度を作るなど考えてもらい、広く住民が使える公共交通として考えるようお願いしたい。
●田中会長 （副村長）	ご意見としていただく。 それでは、見直しの具体的な案をご承認いただいたものと認める。

（３）通学通院支援バスの運行について

・事務局より資料に基づき説明。

●百瀬委員 （村議会）	まっくんバス、タクシー券について、方向性の中ではアンケート調査を行うということだが、朝乗って夕方は乗らない理由だとか、券はもらっているが使っていないなどの事例について、その理由を明確にできるようなアンケート調査にしていってほしい。
●渡邉委員 （長野運輸支局）	通学通院支援バスについて、今後ﾌｨｰﾀﾞｰ系統の補助など考えていく場合、要件等適合できるようにしていく必要がある。
●田中会長 （副村長）	ダイヤ変更及び経路変更については、事務局説明のとおり進める方向とする。 休止する便の考え方について、現状を見ると、休止の候補になる便でも、これまで全く乗らなかったというものではない。また、休止すると代替となる交通手段がない。一年間の運行実績を見て、アンケート調査の結果も踏まえて判断するべきと考えている。ご意見をいただきたい。
●白川委員 （白川タクシー）	なくなってしまうと意味がなく、かといって１人しか乗らないところに多重な税金をかけるというのがどこまで認められるか、正解がない問い。最終的には、村長やこの会議でどこまで認めるか協議の上決めるもので、水準を求めるのであれば数字の幾つまでという形で切らざるを得ない。

●藤松委員	高校のことになるので、毎年状況が変わる。利用する高校生世代も入れ替わっていくわけなので、中学と連携をとって予想など立てばよい。
●田中会長 （副村長）	お二方のご意見はどちらもその通りで、税金の使い方として、費用対効果などの部分でという点はやはりあり、一方で保障すべきサービスというところで運行を維持していくという考え方もある。村が税金でやっていることなので、しっかりと答えを出していかなければならないが、個人としてはもう少し様子を見つつ、アンケート調査で意見を聴取するということでまた休止については考えたいと思っている。 ご異論がなければ、すぐに判断するのではなく、状況を見ながらまた協議させていただきたいと考えているがよろしいか。 特に意見等ないようですので、この点についてはこのようにまとめさせていただく。

４．その他

５．閉会